

■ 鶏舎の種類

どちらの鶏舎が良いのですか？

ウィンドレス鶏舎の特徴を開放鶏舎と比べながら述べていきます。

～ウィンドレス鶏舎の特徴～

臭気や害虫のコントロールが開放鶏舎に比べると容易なため周囲環境への負荷が少ない

。

内部環境の調整が容易なため季節や天候の影響を受けにくく、立地条件もそれほど問題にならない。

野鳥や害虫の侵入がほとんどないため、外部からの伝染病は入りにくい。反面、一度病気が発生して しまうと開放鶏舎よりも清浄化は難しい。

人工的に照度をコントロールできるため（*1）、開放鶏舎で多いカンニバリズム（*2）が少ないので減耗率が低い。

*1．通常10ルクス程度（新聞がやっと読める程度の明るさ）

*2．共食い（照度が高いと鶏は他の鶏をつつき殺してしまうことがある。）

強制換気、完全人工照明のため、電気の使用量が多い。

停電で換気扇が止まった時の対応を誤ると、舎内の鶏のほとんどが死んでしまう危険性がある。

以上であるが、このようにどちらにも一長一短がありどちらが良いと言う事はできません。八千代の提携農場にはウィンドレス鶏舎と開放鶏舎の両タイプがあるが、生産された卵に優越はなく、卵の品質は飼養形態よりも日頃の飼養管理や生産した卵の扱い方による影響の方が大きい。